

浜田川総合開発事業（第二浜田ダム建設、浜田ダム再開発）

暑中コンクリートの打設

秋も深まり朝夕冷え込む季節となってきましたが、今年の夏は非常に暑い日が続きました。ダムのコンクリート打設においても日平均気温が25℃を越えると、施工性の悪化やひび割れ発生の危険性が増すなど、コンクリートの品質に悪影響を及ぼす可能性があります。品質低下がないように適切な処置をする必要があります。

これを「暑中コンクリート」といいますが、第二浜田ダムでは次のような暑さ対策を行い、コンクリート打設温度が高温にならないように施工管理を行い、品質確保に努めています。

また、暑い時はコンクリートの品質確保もさることながら、現場で作業する人の体調管理も大切ですので、熱中症対策も万全にして作業を行いました。

●骨材貯蔵時の冷却

コンクリートの材料となる骨材（碎石）の貯蔵ビンに寒冷紗（日よけ用の布）の設置やツル性植物（ゴーヤ、キュウリなど）を着生させることで貯蔵設備の温度上昇を抑制します。（最後に収穫もできますので一石二鳥？）

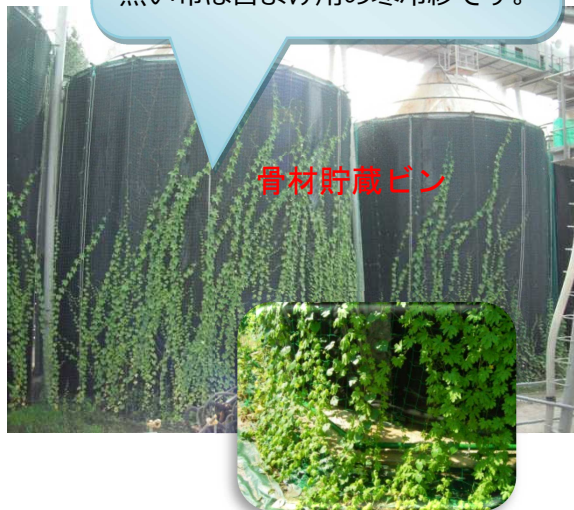
●骨材運搬時の冷却

骨材貯蔵ビンからコンクリート製造設備（バッチャープラント）までベルトコンベアで運搬しますが、ベルトコンベアにミスト噴射装置をとりつけ、噴霧により気化熱を利用し骨材を冷却します。

●コンクリート製造時の冷却

コンクリート製造設備貯蔵ビンを冷風により冷却し、プラント内温度上昇を抑制します。

家庭でも省エネ対策で行われる
いわゆる「緑のカーテン」で骨材
の温度上昇を抑えます。
黒い布は日よけ用の寒冷紗^{かんれいしゃ}です。

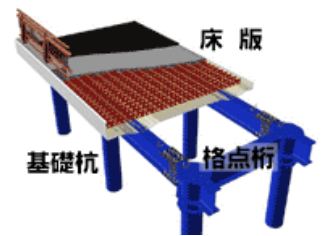
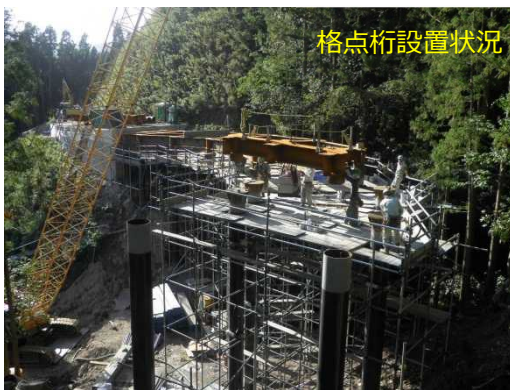


付替林道4号橋の工事状況

現在、付替林道の4号橋（橋長48m、幅員5m）において、「立体ラーメンプレハブ棧道橋」という特殊な型式の橋梁の工事をしています。工法名からは、どんなものなのか分かりにくいのですが、これは橋梁の土台となる部分がコンクリート橋脚でなく、下の写真やイメージ図のように、柱となる基礎杭（鋼管杭）とその頭部にH形鋼材の主桁・横桁を格子状に組み合わせた構造となっています。

この工法では狭小な場所においても、部材の運搬・架設が容易で作業性に優れ、また、土工作业が少なく濁水や流出土砂の発生が抑えられるため、自然環境への影響も最小限で済むという長所があり、経済的にも優れることからこの工法で架橋することになりました。

現在の進捗状況は、直径50cmの鋼管杭を横断方向2列、延長方向11列の合計22本の基礎杭と、高さ約60cmのH形鋼材の格点桁組立が完了し、床板コンクリートの型枠を設置したところです。今後は床板コンクリートの打設に着手しますが、高所での作業となりますので、転落災害には十分注意し、安全第一で工事を進めていきます。



イメージ図

事務所移転のお知らせ

平成24年8月6日より、島根県浜田合同庁舎5階の新事務所にて業務を開始しました。移転に伴い連絡先が以下のとおり変更となりましたのでお知らせします。

職員と業務内容に変更はありませんが、新事務所にて心機一転、業務に取り組んでまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。



お問い合わせ先

安心して暮らせる浜田のために！ 島根県浜田河川総合開発事務所

〒697-0041 島根県浜田市片庭町 254
TEL 0855-29-5760 FAX 0855-29-5772

←変更となりました

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/hamadakasen/>
メールアドレス: hamadakasen@pref.shimane.lg.jp